

(世界史プリント8-5)

第14章アジアの「近代化」 4. イギリスのインド支配と民族運動

- ④ 1905年イギリス[1]を発し、運動の分裂をはかる(p277)
→ 1906 国民会議、カルカッタ大会で四綱領を採択し抵抗
= [2]、[3]、民族教育、英商品ボイコット

→ 1906 イスラム教徒=[4]結成、英と結び、国民会議と対抗
(指導者 [5])
- ⑤ 第1次大戦…資本主義の発達→民族資本の成長、労働者階級の増大(P299)
イギリスの自治の約束不履行→[]を制定=運動弾圧
↓
- ⑥ [6]の指導下に[7]運動を展開、ムスリム連盟も協力
ネルーら→完全独立主張
- ⑦ 1929 国民会議ラホール大会→[8]の要求決議
→第2次非暴力不服従運動展開
↓
- ⑧ 1935[9]法→各州の自治とインド連邦の成立を認める
- ⑨ 第2次大戦…反英非協力、反ファシズム運動 (P323)
↓
1946 イギリス、インドの独立承認→[10]と[11]に分離独立

5. 列強の進出と中国の「近代化」 a, ロシアの東方進出

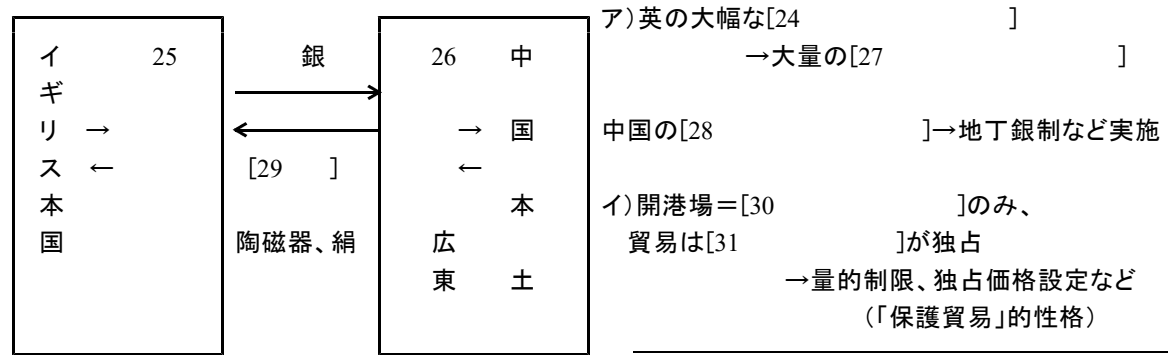
- ① [12]のシベリア進出以来、東方進出つづく→17世紀前半、太平洋岸に到達
↓
黒竜江岸で[13]国と接触
(1) [14]条約(清[15]帝と露[16]帝)
外興安嶺(スタロバイ山脈)以北にロシアをおいやる
(2) [17]条約(清 雍正帝)→モンゴル北方国境を確定
- ② ベーリングらの探検、[18]の根室来航(1792)
- ③ 19世紀中期 東シベリア総督[19]のもとでシベリア進出活発化
1858 [20]条約→黒竜江北岸を獲得

1860 [21]条約でウスリー川東岸=[22]を獲得
- ④ 中央アジアへの進出→ 1881[23]条約、ブハラ・ヒヴァ・コーカンドの3ハン国を併合

b. アヘン戦争とアロー戦争 (p276 ~ 277)

①産業革命前の中国貿易→清の輸出超過、英の銀、中国に大量に流出

産業革命前の中国貿易

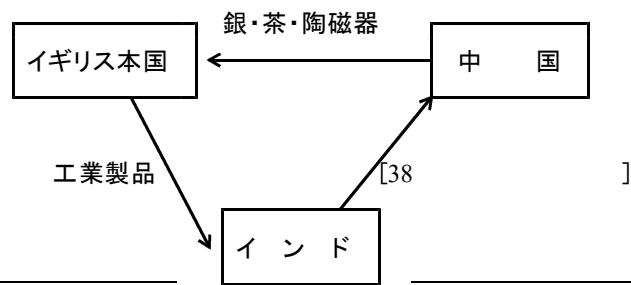


②産業革命→[32] (→[33] の実施)と貿易収支の改善を求める
 1793 マカートニー、1816 アマーストの派遣→失敗

③ 1834[34] の中国貿易独占権を廃止=貿易商人の中国への殺到

ア) 中国の貿易収支の悪化=中国の[35] の流出 →[36]、物価騰貴
 → 民衆の生活困難、反乱など
 イ)[37] の害の深刻化 → 貧民、満人官僚・軍人など

新しい貿易体制の成立



④ 1839 清政府、[39] を広州へ派遣→強硬なアヘン貿易の取締を行う。

イギリスとの間で[40] 勃発([41] ~ 1842)

⑤ 1842 [42] 締結=5港の開港・[43] 貿易の強要などの不平等条約
 (翌年、補助条約(虎門寨条約)を締結、米仏とも同様の条約(望厦条約・黄埔条約)締結)

南京条約の内容

- 1)[44] の割譲 2)上海など[45] の開港 3)[46] の廃止
- 4)賠償金支払 (以上、本条約)
- 5)[47] を承認 6)[48] を失う(以上、虎門寨条約)